

人との関わりで広がる世界

岐阜市立加納中学校 3年
熊澤 知里(くまざわ ちさと)

皆さんは、「多文化共生」という言葉を知っていますか？「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を築き、共に生きていくことです。

私の母は、中国人です。母は、大人になるまで、ずっと中国で暮らしていました。父との結婚を機に、日本への移住を決めたそうです。日本語は話せません。頼れる人は、父と、父の両親だけ。母の不安の大きさは私には想像することができません。いつも辞書を持ち歩き、すぐに調べては少しずつ日本語を習得したそうです。食べ物、人との関わり、文化の違いに驚くことも多かったと聞きました。それでも、母を受け入れた家族や地域の人たちとのつながりがあったから、母は、この日本で生活をするのができたのだと思います。今では、日本語検定1級を取得し、日本にいる中国人の子どもたちに日本語を教えています。母の前向きで、どんなことにも挑戦しようとする、そんな強い心を尊敬しています。

小学校の時、夏休みには中国で過ごしていました。いとこ達が通う学校と一緒に通い、現地の子どもたちと遊んだり、漢詩の勉強をしたりしました。街を歩けば、みんな明るく、誰にでも気軽に挨拶をし、自分から人間関係を築いています。だから、私も初めて出会った人たちともたくさん打ち解けることができました。そんな人たちとのつながりで育った母に育てられた私は知っています。中国人は明るく、楽しい人たちだということを。

小学生の時私が中国と日本のハーフだと知った人から、「中国人はマナーが悪い。」「中国人は嘘をつくことがあるから、お前のことも信じられない。」と言われました。それだけでなく、「中国って汚いよね。」と私に聞こえるように言われたこともあります。どうしてそんなことが言えるの。そう言い返したかったけれど、「そうじゃないよ。」そういうのが精一杯でした。周りから人が離れていくのが怖かったのです。

4年前、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい始めました。世界中が不安と恐怖に襲われました。日本でも感染症が流行し始めると私は「コロナだ。コロナだ。」と避けられ、嫌がられたのです。本当にショックでした。そんなふうに自分が思われ、決めつけられてしまう。すごく怖くなりました。中国で一番初めに感染者が確認されたのは事実です。改善しなければいけない環境問題もあります。でも、中国にあるたくさんのよい所を何も知らずのまま、なぜ、一部分だけを見て決めつけられなければいけないのでしょうか。私の大好きだった中国、そして中国人のことが嫌になってしまい、そう思ってしまう自分のことも許せなくなりました。

でも、中学生になり私の周りの友達は、私の大切な中国のことを知ろうとしてくれています。馬鹿にされることはありません。家で母が作ってくれた中国料理は、日本人向けの味付けではないけれど、「美味しいね!」と食べてくれます。そんな友達と私をいつも嬉しそうに見つめてくれる母を見ると、私も笑顔になります。

中国のことが嫌になりかけた私の心を温めてくれたのは、いつも私を支えてくれる母と、そして仲間たちです。だから私も、自分から相手のことを知ることを大切にしようとしています。人はどうしても第一印象で物事を決めつけてしまいがちです。噂が大きくなって、まるで本当のこのように広がってしまうこともあります。でも、自分から相手のことを知ろうとすると、相手の思いがけない一面や、自分の思い違いに気付くことができます。そうすることで、もっと深く人と関わるができると思います。

私の夢はたくさんの人と関わる仕事に就くことです。自分の言葉や行動が誰かを笑顔にできるようにしたいのです。日本、中国という枠組みだけで物事を捉えるのではなく、同じ世界に生きる一人の人として、自分から相手のことを知り、相手との関わりを広げていきたいと思います。私の大好きな中国、そして日本、世界中の人々が平和だと感じられるように。